

## 血液型・クロスマッチ別採血方法の確立～職員意識改革の取り組み～

◎齊藤 健太<sup>1)</sup>  
公立甲賀病院<sup>1)</sup>

【目的】血液型検査と交差適合試験用採血（以下クロスマッチ採血）は、異なる時点で別採血することが輸血過誤を防止するうえで重要な工程である。「輸血療法の実施に関する指針」では「ABO血液型検査は同一患者からの異なる時点での2検体で、二重チェックを行う必要がある」、「交差適合試験の患者検体の採取は原則として、ABO血液型検査検体とは別の時点で採血した検体を用いて行う」と明記されているが、この重要性について自施設では職員の認識が不十分であり周知もできていなかった。今回、2021年度に発生した緊急輸血症例を契機に、血液型・クロスマッチ別採血方法を確立し、同時期に緊急輸血マニュアルを改訂、2023年にはコンピュータクロスマッチを導入し、一定の効果が得られたため報告する。

【方法】①輸血検査用スピッツの独立化：採血スピッツを他の検査で使用しているEDTA-2Kスピッツと別メーカーのスピッツを採用し輸血検査用スピッツとして独立化。  
②別採血証明ラベルの導入：血液型の1回目と2回目の採血及び血液型とクロスマッチ採血の依頼が同時にされた場

合、別採血証明ラベルが出力され、別採血した採血者がサインする運用。

③3職種必修研修会で院内周知：上記の運用変更を輸血に関与する3職種（医師・看護師・臨床検査技師）必修研修としWEB研修会を開催。

【結果】運用変更前に別採血認知度が39.3%であったのがWEB研修会後アンケートより別採血の重要性に関する理解度は97.9%と職員への周知効果が得られた。

【考察・結語】輸血検査用スピッツを独立化しWEB研修会を必修化することで、職員に血液型とクロスマッチ採血の別採血の重要性について周知することができ、緊急輸血マニュアルの改訂により緊急時の輸血前採血の対応も整備できた。別採血証明ラベルの導入により、血液型の2検体による二重チェックが明確化され、コンピュータクロスマッチへの移行がスムーズにでき、患者への赤血球製剤の迅速な供給及び業務の効率化を図ることができた。

連絡先-0748-62-0234